



2026 年 8 月 6 日

各 位

会社名 セーラー万年筆株式会社
代表者名 代表取締役社長 田村 光
(コード番号 7992 東証スタンダード市場)
問合せ先 常務取締役 管理本部長 木村 孝
(TEL 03-6670-6601)

2026 年 12 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2026 年 2 月 13 日に公表いたしました 2026 年 12 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

記

2026 年 12 月期第 2 四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異(2026 年 1 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,248	△91	△92	△100	△3.37
今回実績 (B)	2,295	△25	△32	△50	△1.70
増減額 (B - A)	47	66	60	50	—
増減率 (%)	2.1%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2025 年 12 月期第 2 四半期 (中間期))	2,117	△119	△117	△130	△4.39

●業績予想と実績との差異の理由

(文具事業)

国内市場においては、当年 2 月に実施した製品の価格改定の効果により、販売数量は減少したものの売上高及び売上総利益は増加いたしました。特に高価格・高付加価値製品への需要は底堅く、売上が順調に伸びたほか、専門店におけるインバウンド需要が価格改定後も衰えず維持され、業績を牽引いたしました。また、プラスグループ 3 社で共同開発した「Que Será (ケセラ) ボールペン」につきましては、発売以降大変好評をいただいております。さらなる普及・拡販に向けた積極的なプロモーション活動を図っております。海外市場においては、欧州での新製品投入の遅れや中国での景気低迷の影響があったものの、北米における非金素材（スチール等）ペン先製品の好調や大手チェーンでの取扱枠拡大に加え、アジア等のその他地域でも「TUZU」をはじめとする新プロダクトが牽引し、高い成長率を維持いたしました。現在は、欧州における下期に向けた新商品の順次投入や、中国でのリアル店舗体験施策などを推進し、業績回復と需要の掘り起こしに取り組んでおります。以上の結果から、売上高 17 億 4 千 2 百万円（前年同期比 9.3%増）となりました。利益につきましては、前年度から引き続いている金地金を中心とした原材料費の高騰の影響を受けながらも、当年 2 月に実施した製品の価格改定や、非金素材（スチール等）ペン先製品の拡販により利益率が改善され、セグメント利益 1 億 8 百万円（前年同期セグメント利益 3 百万円）となりました。

(ロボット機器事業)

ロボット機器事業においては、3 月以降の中東情勢等に伴う市況の不透明感の高まりを受け、顧客企業における設備投資の抑制や延期の動きが広がるなど、厳しい事業環境となりました。このような環境下、国内外の医療・食品関連機器分野を中心に顧客深耕および新規開拓を進め、主力の取出口ボットの拡販に努めました。この結果、売上高は 5 億 5 千 2 百万円（前年同期比 5.5%増）と

なりました。利益につきましては、引き続き各種経費の圧縮に努めたものの、原材料費の高騰や顧客需要の掘り起こし策の効果が薄かったことなどが影響し、セグメント損失1億3千4百万円（前年同期セグメント損失1億2千3百万円）となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は22億9千5百万円（期初業績予想比2.1%増）、営業損失は2千5百万円（期初業績予想 営業損失9千1百万円）となりました。

当中間期の業績は計画に対し上振れて推移しておりますが、通期業績予想につきましては、下期における製品開発や市場開拓の費用支出の時機と各事業の季節性等を踏まえた期初計画の前提に変更がないこと、また中東情勢などの外部環境の先行き不透明感を勘案し、2026年2月13日に公表いたしました予想値を据え置きます。

今後、業績修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以上